

省力化と環境負荷を軽減した ミカン用の春まき肥効調節型肥料を開発

ミカン用の春まき肥効調節型肥料をJAあいち経済連との共同研究により開発しました。この肥料は3月に1回施用するだけで年間に必要な肥料成分をみかんの吸収特性に合わせて徐々に供給するため、慣行施肥の20%窒素成分を削減できます。4年間の継続試験の結果、慣行と同等の生育、収量、果実品質が得られることがわかりました。



(園芸研究部)

ナシ黒星病菌のDMI剤耐性検定が 年内にできるようになりました

基幹防除剤に対して耐性を持つナシ黒星病菌の検定法を改良しました。これまで、夏前の短い新葉期にしかできなかつたため、年内



ナシ黒星病の検定の様子

の判定が困難でした。

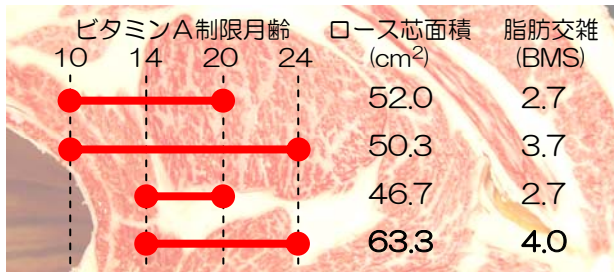
そこで、秋季に検定する技術を開発し、確実に判定できるようになりました。これにより、翌年の防除計画に活かすことができます。

(環境基盤研究部)

最適なビタミンAコントロール による交雑種雌牛肥育技術を開発

交雑種雌牛の肥育においてビタミンAを制限する最適期間を明らかにしました。飼料中のビタミンAを14か月齢で制限し始め、24か月齢から補給することで、体重の増加を損ねることなく、きれいな霜降り（脂肪交雑）や大きいロース芯面積などの肉質に優れた牛肉を生産できます。

(畜産研究部)



食用油の製油副産物で 家畜ふんの堆肥化を促進します

牛ふんは一般に水分量が多いため、気温の低い冬場には堆肥化が困難になりますが、米ぬか油製造過程で生じる副産物を添加することで解消できます。脱脂米ぬかを5%または廃白土（使用済み製油材）を10%添加することで、適正水分より5%高い堆肥原料でも良好に発酵します。

(畜産研究部)

東海地域農業関係試験研究機関 の研究協定が調印されました

愛知県、静岡県、岐阜県、三重県の5農業関係試験研究機関は、昨年11月に農業技術の発展及び農業の振興を図るため、研究協力に関する協定を締結しました。協定により、最新科学技術に関する情報交換・情報発信、連携した研究等の推進や研究員の交流と人材育成に取り組んでいきます。

(企画普及部)



編集・発行

愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線323 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>